

---

# 僕が強かったら

夜空のほし

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕が強かったら

### 【Nコード】

N4242C

### 【作者名】

夜空のほし

### 【あらすじ】

いつも弱い主人公がすべてを捨てようとしたとき、彼女が現れた。しかし…

「ミーンミーン」とセミの声、夏休みも終わろうとしていた。僕は明日の準備のため、ただ暇だったので学校道具を買いに行った。

行き先もなくとぼとぼ歩いて行くと細い道があり何気なくその道を通った、その道を抜けると、ふるさびれた、文房具屋があった誰一人客がいなく、品揃えも悪かった、ここでいいやと思い物色していたらあまりにも安いボールペンを見つけた。こんな安いやつがあるのかと思いそれを持った。家に帰りボールペンを使ってみたが書けない、騙されたと思ったがデザインがよく常に持ち歩くようになった。

新学期が始まった。

学校に着くとまた例の奴が文句をいつてきたはるかである。

「邪魔だよ、どけよ」「まだいたの」僕は何も言えず黙り込んだ、

僕は、さとり、いつも弱気で何も言えない弱い男だった、いつもいじめられうんざりしていた。生きていくことさえつかれてきた、

僕は授業にもでず屋上にいた、このままいつそう死のうと思ひ運動場を見つけていた、その時だった

「死ぬの？」後ろから声が聞こえた「死んでも何も変わらないよ」と言う彼女

「君には関係ないじゃないか、僕の気持ちは解らないよ、友達もいなく助けてくれる人もいない生きてたって仕方ないじゃないか」

「じゃ私が守ってあげる、どこでも駆け付けてあげるから」

何言っただと思ひ彼女を見たが彼女の目は真剣で死ぬのをやめってしまった。

信じてはいないが、初めて言われた言葉だった嬉しくその場を駆け足で立ち去った。彼女は笑顔で僕を見つめていた。

教室に戻り一人で考え込んでいた。昼休みになり急いで屋上に上がったが彼女はいなかった。

そのかわりはるかがそこにはいた「なんでこんなところにいるんだよ」と僕を蹴った、僕は何も言えず黙った、すると向こうの方から「今時いじめ、そんな事して楽しいの」と言う彼女

「あんた誰」はるかも彼女の事は知らないようだ、

彼女は何も答えず続けた、「あなたの立場が逆だったらどうするの、助けてくれる人もいなくて、あなたは淋しい人ね」

はるかが何か言いかけたが彼女は、はるかの目を見続けていた。はるかは何も言えずその場を立ち去った。その姿を見てそのあと彼女の姿を見たが彼女の姿はなかった。

彼女は来る日も来る日も僕が悲しかったり辛い時には助けてくれた、僕は不思議に思いながらも彼女の優しさに甘えていた。

浮かれながら帰り家でふと筆箱をのぞいた、あんなに書けなかったボールペンが残りわずかになっていた。使えもできなかったのに、どうしてだろう。僕は気にはなつたが深く考えなかった。次の日もまた彼女が助けてくれた、その後彼女は言った、

「私があなたを助けられるのも後少し、だからもつと強くなって」僕はわけがわからなかった

「どうしてなんだい」僕は言った、すると彼女は

「あなたの辛い事や悲しい事はすべて助けてあげるために現れたの、あのボールペンが私」

僕は思い出した使つてもいないのにインクが減っていた事を、僕は急いであの文房具屋に向かった、けれど文房具屋は無くなっていた、家に帰りもう後少しと思うと辛くなってきた

「辛いんだね、私のせいでその辛さ全部とってあげるあなたの中から私の記憶すべてとってあげるね」

「そんなのは嫌だ君を忘れてしまうなんて…」

「さとり早く来いよ、何してんだよ」

「ごめんごめん」

「いつも気になってたんだけど何で切れているボールペンもってるんだ」

「なんか手放せないんだよこれだけは」

その時誰かにぶつかった、「痛い！」

「大丈夫ですか？よそ見していたもので」

その人を見たら初めて会うのに涙が出てきた…

「ぶつかってしまったお詫びに食事でもおごらせて下さい」

「いやいや、いいんです気にしないでください」

「それじゃ僕が納得できないんです」

「じゃ割り勘でいきましょう」

二人とも微笑みあい風はいつもより涼しかった…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4242c/>

---

僕が強かったら

2010年10月11日07時08分発行